

令和6年度 第2回 スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和6年11月5日（火）13：25～15：20
場 所	第三委員会室
参 集 者	委 員／中條庸右、齋藤 隆、堀 俊一、齋藤 勉、田中 大、 金子 尚、大滝美樹、穂積 祥 欠 席／進藤和真 酒田市／赤坂教育長、堀賀教育次長 スポーツ振興課（事務局） 樋渡課長、中山課長補佐、高橋主査兼係長、乙坂係長 学校教育課 小林指導主事、高橋部活動改革総括コーディネーター
配布資料	資 料 1 令和6年度スポーツ振興課事業の実施状況について 資 料 2 令和6年度の事業進捗状況 及び令和7年度の予算要求に向けて 当日配布 令和6年度 部活動改革に向けた実態調査結果について

1. 開会（事務局）

【会議の成立について報告】

- ・「酒田市スポーツ推進審議会に関する条例」第6条第1項により、審議会は、委員総数の過半数の出席が要件となっている。本日の審議会については、委員総数9名のうち、出席者8名となっており、審議会が成立していることを報告する。

2. あいさつ（教育長）

- ・本市においては、新たな試みとして、「第1回スポーツフェスティバル」を7月7日に開催し、各種大会や体験会に、多くの市民の皆様からご参加をいただいた。また、10月20日には第13回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会を開催した。今年は全国各地より1,336名のランナーからエントリーをいただき、大きな事故等もなく、成功裏に大会を終えることができた。
- ・10月12日に大同生命SVリーグが開幕した。INPEX酒田アリーナの改修工事が昨年度で完了し、アランマーレ山形のマザータウンとしてのホーム開幕戦が10月18日と19日に行われた。悲願の勝利とはならなかったが、チームのレベルアップが感じられた試合だったので、初勝利に向けてしっかりと応援していきたい。
- ・相撲界においては、大相撲十一月場所の番付が発表され、本市出身の北の若関が、十両東筆頭として再入幕を目指す。必ずや勝ち越して、市民に元気をもたらしてくれるものと信じている。
- ・本日の審議会では、令和6年度前半のスポーツ行事をはじめ、令和7年度に向けての予算概要などについてご審議いただき、委員の皆様からは、それぞれの立場でのご意見を頂戴したい。

3. 協議（進行：会長）

【審議会の進め方について】（事務局説明）

- ・はじめに（1）令和6年度のスポーツ振興課事業の実施状況について説明させていただく。
- ・続いて、（2）令和6年度の事業の進捗状況及び令和7年度の予算要求に向けての事務局

の考え方を説明する。

- ・説明については、I からIVまでの基本目標ごとに、資料は2-1から2-4までを区切って進めさせていただく。
- ・ご意見、質疑等については、その都度お願いしたい。

(1) 令和6年度スポーツ振興課事業の実施状況について **資料1** (事務局説明)

【質疑応答】

○委員

今、陸上競技場に工業者が入っているのだが、この改修工事はスポーツ振興課事業の一環なのか。

⇒事務局

陸上競技場のレーン改修工事もスポーツ振興課事業の一環で、体育施設整備事業に含まれている。

○委員

物価高騰で、契約したときと価格が変わって、補正予算を組まなければならないものは結構あるのか。例えば災害等、予想外の事情で増額となるケースなど。

⇒事務局

当該年度のもは、契約をすればその契約金額で進む。例えば令和4年度に予算要求をして1億円であったものが、庁内で予算が付かなかった。2年後に同じものをやろうとした場合に1.5倍になっていたりということはある。今のところ、契約をしている改修事業等については、精算の段階で上がるということは基本的にはない。

○委員

八幡体育館改築事業について、「大雨災害に伴い3ヶ月の工期停止」とあるが、これは今後の工期に大きく影響してくるのか。

⇒事務局

予定は8月1日からの解体であったが、それが11月1日からになった。当初、令和8年4月に使用開始を見込んでいたが、若干の遅れはあるであろう。ただ、3か月伸びたから3か月遅れるということではなく、業者からは1か月程度と聞いている。

(2) 令和6年度の事業進捗状況及び令和7年度の予算要求に向けて

<基本目標I>誰もが楽しめる生涯スポーツの推進 **資料2-1** (事務局説明)

【質疑応答】

○委員

鬼ごっこ事業は大変好評で広がりを見せているようである。令和4年度から取り組んで、どのくらいのスパンで、5年なのか、10年続けるのか、その辺の見通しはあるのか。例えば行政の場合は、このようなものを発表、体験させることによって、あとは独自でどんどん広げてもらおうというのが一つの考え方ではないかと思うが、いかがか。

⇒事務局

来年度、スポーツ推進計画の見直しを予定している。現在は山形県のほうで見直しをかけているところ。よく「行政の事業は3年程度」と、そういった考え方もあるのだが、スポーツの場合は、対象者が毎年変わるし、学年も上がる。子どもたちを対象にするというのは未

就学児が小学校に上がるだとか、そういった場面があるので、3年から5年というものでもないのかなと思っている。例えばこういった事業を、スポーツ少年団とか、スポーツ協会を受託できる可能性もあるが、今回の場合は公益大との連携もあるので、それを調整する、動ける職員がいるということが前提になるのだと思う。スポーツ振興課では職員が10名おり、ハード面とソフト面に分かれて担当業務を持っているが、そういったものをどこかに委託できるのであればそれに越したことはない。スポーツ推進計画に基づいて、令和11年までの計画となっているため、手放せる時期が来れば、どこかで受けられるのであればそういった形をお願いをするようにしたいと思うが、今のところはスポーツ振興課でやっていく予定である。

⇒委員

色々な事業でも「マンネリ化」が一番怖い。常に新しいものを考えながら発信していくことが大事なのかなと思う。

○委員

鬼ごっこ事業について。今年度、八幡小学校にも11月に来ていただけるということで、楽しみにしている。今年の「7校」というのは、希望が7校しかなかったのか。それとも数を制限したのか。

⇒事務局

昨年度、各校のほうから「早めに周知してほしい」というような要望があったため、事前にお話はさせていただいていた。二十数校ある中で、輪番で3年間の対象校が決まっていたのだが、新年度に入って校長先生が変わったり、各校の行事だとか色々な要素があって、大学と調整をしているうちに、「聞いていない」だとか、そういったお話も実はいただいていた。そういったこともあり、来年度以降は「手挙げ方式」ということで実施させていただきたいということで、先日、各校のほうへ周知させていただいたところである。

<基本目標Ⅱ>感動と活力に満ちた競技スポーツの推進 **資料2-2** (事務局説明)

【質疑応答】

○委員

現状評価の中で、「各競技団体に対し、全国大会等の大会誘致を働きかける」とあるが、非常にありがたい話だと思うが、それに伴う施設がしっかりしていないとなかなか全国大会はできないと思う。鶴岡ではソフトバレーボールの全国大会とか、バドミントンの世界大会をやっている。そういう大きな大会は、経費の面もあるが、大事なことなのかなと思う。この辺を競技団体のほうに「どうぞやってください」と言っても、「じゃあ引っ張ってきます」というわけにはいかないので、施設との関連もあるので、よろしくお願いをしたい。

⇒委員

ソフトバレーボールは酒田でもやった経過はあるが、選手そのものが減っている。バドミントンにしても、鶴岡の学校では盛んだが、酒田の学校はどこかあるのか。アーチェリーもしかり。競技そのものが少なくなっているという傾向にある。大会を開きたいと言っても、許可するほうも大変である。

鏡優翔さん(レスリング)は山形出身ということだが、もう一人いる。元木咲良さん。お父さんが十坂小学校出身で元木康年さん(シドニーオリンピックに出場)。自衛隊からオリンピックに行き、いま埼玉に住んでコーチをやっている。三川町でこの前、元木咲良さんをお呼びして研修会をやったが、酒田には来ていない。琴桜は父親が尾花沢出身ということで、そのからみで一生懸命に企業が応援している。また、市の予算で1千万円ほど組んでいる。

酒田のアランマーレはなかなか勝てないというのもあるが、盛り上がりがないような気がする。元木咲良さんは三川で研修会をやって、酒田でひっそりと祝賀会をやったということだが、もうちょっと盛り上がりもいいのかなと思う。父親が酒田市出身と知らない人のほうが多いのでは。金メダルを取っているので大したものであるが、なかなか広がりがなく残念である。酒田もレスリングは、前は酒商にあったが今は無いわけで、そういうスポーツをやっている人の人口が、鶴岡と比較するとかなり少ないと感じる。

○委員

前に相撲の巡業をやったことがある。北の若がいるのでできないことはないと思うが、あれは大変なのか。

⇒委員

スポンサーがいないとできない。前の巡業のときは市内の企業が各企業に声を掛けて、関取の四股名と企業名を入れてのぼり旗を作らせてやった経過がある。

<基本目標Ⅲ>スポーツによる賑わいとまちづくりの推進 **資料 2-3** (事務局説明)

【質疑応答】

○委員

つや姫マラソンには「酒田のラーメン」が出たということで、出場した保護者の方が大変喜んでいて。食とスポーツはすごく関りがあるな、文化とも関りがあるなと思うと、経費が掛かるかもしれないが、食とスポーツがつながるような企画はいいなと思った。

先日の社会教育推進審議会のほうに出席させていただいたときに、「生涯学習まつり」も同じ日で、酒田市街での大きいイベントが、重なるよりは、もしかしたら離れたほうがいいのかと思った。

こういう会議に出て、スポーツ振興課の方々が、色々な多岐にわたる業務をされているんだなと実感するところである。ボランティアに参加したいと思いながら色々な行事でできなかったが、初めてのスポーツフェスティバルが盛大に終わったのはよかったと思う。つや姫マラソンに関しては、ボランティアを高校生にも声を掛けたのはいいなと思った。

広報に出てもなかなか自分事のように感じる事が少ないため、今回「スポーツ能力測定会」について、個別に園のほうにお知らせいただいたのは、ありがたかった。

⇒事務局

生涯学習まつりについては、以前からどうしたらよいかという話はあるのだが、交通規制の部分でという話なので、以前はどんしゃんまつりと一緒にやったり、別々というよりも「コース上にある」ということを生かしたほうがよいというような話もあって、結論は出なかったが、それぞれ所管課が違うというところでそのままやってきた経緯である。

マラソン大会については、酒田市民が800人程度出ていたのが、コロナで少なくなった。これについては小学生の1,000メートルの部門、あとは中学生の3キロ、5キロ。そういったものがなくなったという部分での市民の参加者減につながっていると思う。小学生の1,000メートル、中学生の3キロについては陸上競技協会の協力も必要なので、ちょっと難しい。ただ5キロについてはマットを使えばできるということで、そういった観点と、市民の参加者を増やすということで、来年から5キロ部門は復活するという方向でいる。加えて出羽大橋を渡すコースに変えるということで、ロケーションも、晴ればという条件付きではあるが、そういったところで全国的に魅力のあるコースであるのかなと思う。

今日付けで確認したところ、ランネットという申し込みサイトがあるのだが、そこに今回のつや姫マラソンの評価が載っていた。今のところ、10月のハーフマラソンの部では4位

という結果であった。以前は2年連続1位というときもあったが、コロナもあったため、なかなか評価してくれる人がおらず、去年も最終的なランキングは出なかった。今年は評価してくれる方も多く、100点をつけてくれる方もいれば、反対に「とても良かった」と言いながらも60点という、そういう評価もあるので、マイナスの部分の評価を生かして来年につなげていければと思う。

ボランティアについても、スポーツ推進委員を以前されていた方を中心に、「スポーツボランティア会」のメンバーになっていただいている。スポーツ推進委員をやっていた方だけではなく、全く初めての方もいらっしゃるので、「ささえるスポーツ」ということで、ボランティア会と連携して進めていければと考えている。

○委員

評価に関して2点ほど。5キロというのは高校生か。中学生は難しいのか。

⇒事務局

高校生以上である。中学生は学校の方針で「3キロ」という制限がある。

○委員

全国的なマラソン大会の中で「高評価」となるのは、子どもはあまり参加しないものなのか。今までやってきたつや姫マラソンが、子どもも参加できるめずらしい大会だとしたら、酒田市的にはそこを特色としてもいいと思うし、全体的にそこは評価に関わってこなければ、安全に大会を運営するのであれば、子どもはまだ、ということなのかなと思う。私たちは、子どもたちが小さいうちから、地元に参加できる大会があったら、どんどん広がると思っているので、以前からしつこいくらいに「子どもたちが参加できるといいな」ということを言っていた。マラソン大会の中で上位に入っているところは、子どもはあまり参加していないのか。

⇒事務局

子どもたちが参加しているか、していないかというのは全部調べているわけではないのだが、評価についてはあくまでもランネットを通して申し込んでいる方だけの評価となる。以前のつや姫マラソンには小学生も出ていた。その中で全国1位を2年連続して評価いただいたという点については、ゴールの時間が一般の方と違う。大会開催前に1,000メートルを終えたり、10キロ、ハーフよりも早くスタートして早く終わらせる。そうするとランナーにとっては障害にはならない。実態としては10キロの遅い人、ハーフの遅い人は速い人と交差する部分は出てくるのだが、それについてはどのマラソンも一緒であって、そういったところで小学生が参加しても、中学生が参加しても、時間帯をずらせば可能なのかなとは思っている。ただ、競技性を重要視する団体の協力をいただいているため、意見が同じような考え方にならないというところがあり、今の状態になっている。

○委員

出羽大橋を渡ることはすごく魅力的だと思うが、警察との協議はどうなっているのか。

⇒事務局

春に警察署のほうに資料をお持ちして、お話しをして、8月には了承をいただいている。ただ、交通規制の部分で、警察署長規制というものがあるのだが、実行委員会規制ということで、車を通すことも可能である。クレームが多いのが、車両が通れないということ。「いま大会中なので、横切れないので、迂回してください」という規制に対して、県外から来たトラック運転手からのクレームが多い。安全を考慮して、道路を横切らせることが可能ということなので、そういった面も好材料としていただいている。運営上、支障のない交通規制

という形で、来年、進めていければと思っている。基本的には、警察のほうは協力する立場だということをおっしゃっていただいたので、中身はまた協議させていただく予定である。

○委員

スポーツツーリズムについて。審議会委員は条例で「10名以内」ということになっているが、ここに経済界の方なども、これから入れていく必要があると思う。これから新しい計画を立てる中では、商工会議所の副会長さんでもいいし、経済界の方を入れたスポーツ推進審議会。委員皆様のご意見もあろうかと思うが、市内の幅広い方々からご意見をいただくことも必要ではないか。意見として述べさせていただく。

<基本目標Ⅳ>安全安心なスポーツ環境の整備 資料2-4 (事務局説明)

【質疑応答】

○事務局

一点補足させていただく。先ほど委員のほうから、全国大会の誘致については施設の整備、改修が必須というようにお話をいただいた。担当課としても当然のことと思っているが、特に大規模改修となると、一般財源での改修は難しい。特定財源として、スポーツ振興課では毎年、t o t oの助成をいただいている。上限は3千万円ほどとなるが、なかなかそれだと1億、2億の工事は難しい。競技団体では東北大会、全国大会が3年後にもう決まってしまったと言いながらも、なかなか財源がないと厳しいところもある。酒田市に誘致というよりも山形県で受けるのが先になるのかなと思う。それぞれの競技団体の上部組織としては県競技団体があるので、そういったところとの調整をしながら、酒田に持ってくるのか、山形に行くのか、天童でやるのかという状況になるかと思う。3年というより、もっと先の情報があればありがたいと思っている。委員の皆様方も、そういった情報があればぜひ提供いただきたい。特定財源を付けるためには、計画段階から入れ込まないとなかなか国の補助ももらえないというところもあるので、早めに条件をいただければ大変ありがたい。

○委員

昨日テレビに、天童の運動公園のイチョウ並木が出てきて、家族連れが歩いていた。運動公園は県の施設だが、酒田も飯森山あたりがああいうふうにならないのか。体育施設があって、そして、子どもたちが公園で遊んだり、天童みたいに人が集まったりしたらいいと思う。サッカー場のことが色々あったが、小さいことを言わずに、あそこでキャンプをさせたり、色々させたらよい。そういうのが、これからは大事なのかなと思う。天童に負けないくらいとは言わないが、飯盛山を市全体で盛り上げて、家族が集まって弁当をひらいたり、土日はお店が来るとか、そういうふうになればいいなと思う。

【協議全体を通して】

○委員

つや姫ハーフマラソンについて。私もボランティアで参加させていただき、北港のほうで立っていた。海上保安庁の船が沖で待機していて、電光掲示板で文字をずっと流していたのだが、海まで遠いものだから、ランナーの方がほとんど見ていない状況であった。せっかくやってくれるのに、ちょっともったいないなと思った。それから全体的に見ていて、確かに評価とかはあるのだが、東京マラソンの出場権もあるので早い人は早いのだが、話を聞くと、楽しみで走っている人が一杯いらっしゃる。その辺は評価の中で、どういう形で評価になるのかということで、私はあまり評価にこだわらなく、楽しんで走れるつや姫ハーフマラソン

でいいんじゃないかなと思う。例えば、子どもを入れるのであれば、楽しめるような形で私はいいかと思う。

○委員

龍神マラソンは確か、1キロ、3キロ、ファミリーの部がある。それでも参加は660人ほど。全国から来たとしても、酒田の半分くらいである。酒田も最初は2千人をちょっと切るくらいの人数であった。コロナになって一旦下がって、10キロとハーフだけにしてから極端に減った。それがまた増えてきているわけだから、人気としてはある。ただ、「楽しんで」ということではあるが、時間がルーズで立っている人は大変。キャラクターで走っている方は楽しんでるので、それはそれでいいと思うが、立ってる人が大変。天気が良ければまだよいが、雨風の場合は、寒い中2時間半も立っていなければならないので悲惨である。まあ、それはそれとして、楽しんで走ってもらってれば、全国からより多くの方から来ていただけるので、結構な話である。

4. その他

(1) 中学校運動部活動の地域移行に係る現状報告について

①部活動改革の進捗状況について 資料なし (学校教育課説明)

・現状について

部活動改革については、生徒数が減っているということが一番のネックになっている。生徒数が2,322人(R5.5.1)から2,177人(R6.5.1)に減少し、145人減っている。7つの中学校で平均すると20人くらい減っている。部活動加入率も60%を切って57%くらいになっている。その関係もあり、どんどん人数が少なくなって、チームが組めない、練習ができない、部員が足りない、というのが進んでいる現状である。

市内の7中学校の部活動の数は、文化部も含めると105ある。文化部については全部で19ある。運動部については86あるが、その中に準部(クラブや道場で活動しているもの)が15あるので、学校が主体となって行っている運動部は71である。そのうち「地域移行した」と考えられるものは39あり、50%を超えている。

他の運動部はどうしているのかということについては、部活動改革といった場合に、推進計画(3年間)の2年目に入っているが、部活動の「地域連携」と「地域移行」を分けて考えていかなければならない。地域連携というのは、地域の指導者がいて、部活動を地域の方々が運営してくれるという考え方のものである。この地域連携については、ほぼ全て(9割以上)が行っている。全ての中学校で、土日に中学生が活動できないという所は一つもない。

地域連携は進んでいるのだが、地域移行という形で、地域がクラブ化されて、運営から練習から全て地域でみていくというものについては39だけである。ただ、その中身としては、総合型地域スポーツクラブに受け皿を担っていただいている所が3つある。あとは、旧市内の中学校いくつか、将来を見越して、また距離的に近いところもあるため、統合するかもしれないということを見込んで、一つの傘の中に入ってクラブを作っていくかと検討をしているところ。現在進行形であり、どうなるかはまだ分からないが、だいぶ話は進んでいる。あともう一つは、競技ごとに単独でクラブ化していくという所や、または、他のクラブと合同で、一緒にやっていくという形で検討に入っているところである。来年度までには、地域連携から地域移行というところに進めていきたいと考えている。

・今後について

皆様、報道等でご存知かもしれないが、文部科学省、その中のスポーツ庁と文化庁のほうで検討に入って、冒頭申し上げたように、「地域移行」という言葉が、今の段階では「地域展開」という形。地域移行と言うと、学校から全て地域に投げてしまうようなイメージがあるので、そうではないと。一緒に連携していくのだという考え方であるため、それはずっと変わらないのだが、「地域展開」というふうに名前が変わったり、文化庁の地域移行も入ってきて、そして、令和5年度から7年度までの3年間を、部活動改革推進期間としてきたが、令和8年度以降の5～6年は「実行期間」に入っていく。その中で、平日の部活動も地域移行していくという、そういうことが打ち出されるであろうというような、まだ発表されていないので詳しいことは申し上げられないが、報道の範囲内でいま申し上げたが、それががあるので、こちらのほうも少しスタンスを変えていかなければならない。

つまり、先ほど申し上げたように、部活動を連携したり、地域移行という、部活動の域でいるのは令和7年度まで。令和8年度以降はまた新たな段階に入っていくということで、部活動ということでやってきたので、推進期間については学校教育課を中心に原案を立てて進めてきたわけだが、それ以降については学校教育課だけで担うものではない。スポーツ振興課と一緒に、スポーツ振興課の考え方を尊重しながら進めていく。というよりも、教育委員会4課が全て入っていかなければならない。それだけではなくて、関係各課、色々な方々のご意見を頂戴するという。お知恵を拝借するという。それだけではなくて、地域の方々のご意見などをいただきながら進めていかなければならない。酒田市のスポーツ、文化環境のあり方ということで将来像を検討したわけだが、そのような形で、一つの部活動の連携とか地域移行からまた次の段階に進むということである。

元々、酒田市の子ども達のスポーツ文化芸術環境を整備するというを目的にスタートしているので、例えば、部活動の関係についても、スポーツ振興課の資料2-3のところの「推進項目(2)スポーツを通じた地域コミュニティの維持・再生」、このところに、先ほどから聞いていても中学生の活躍、参加があまりないと感じている。小学生や大人はあるのだが。これを機に、中学生を含めた形で、中学生もコミュニティの一人として、スポーツや文化面において、コミュニティを発展させるというところ。活性化させる一員になればなあという、そういう思いで、スポーツ環境、文化環境の整備ということで進めていきたいと思っているので、幅広く皆様のご意見が必要だということである。

来年度以降については、スポーツ振興課と協議を進めているところであるが、今まではこの審議会でご報告させていただいておたが、やはり文化庁の部分とか、部活動に限らずスポーツ環境の整備といったときには、新たな協議会などを設立して、色々なご意見を頂戴して、検討に入っていかなければならないであろうということである。将来像もしかり、推進計画もしかり、財源をどうするのか、受け皿をどうするのか。

指導者の問題は大変大きな問題である。なかなか増えないというところ。指導者はいるのだが、先ほど申し上げたように、指導者がちゃんといて土日の活動も行われているのだが、クラブとして独立したものになって、そこでも指導者としてやっていくというところまで自分はできないだろうなという方もいらっしゃる中で、今やってる方々を全てそのまま指導者にすればいいのではないかというわけにもいかない。なかなか厳しい状況もある。そういうことを検討しながら、皆様方のご意見をいただきながら進めていきたいと思っている。今後、そのような形で、より一層、皆様方のお考え、ご意見、ご助言などいただきながら進めていきたいと思うので、今後ともよろしくお願いをしたい。

②部活動改革意識調査結果について 当日配布資料 (学校教育課説明)

【①②通しての質疑応答】

○委員

一番のネックが移動手段ということだが、その部分を解決できないご家庭の場合、部活動をする子どもたちが段々減っていった、「帰宅部」という言葉が以前にはあったが、何もスポーツに関わらない子どもたちが増えるだろうという見通しはあるのか。そういう子どもたちの受け皿として、いま色々画策していただいていると思うが、格差が生まれるのではないか。

⇒学校教育課

当初から「格差をなくする」という、なくすることは難しいのであろうが、格差を最小限にするということで動いている。移動手段についてはスクールバス、るんるんバス、様々なものがあるが、今ここで、こうしたいということはお伝え出来ない。移動手段、そして、会費が高いということで、「あなたはスポーツを諦めなさい」と、そういう子どもを酒田で作らないためにはどうすればよいかということも現在検討中であるし、これからもずっと検討課題であると思っている。

○委員

総合型地域スポーツクラブの立場としての意見であるが、「帰宅部にならないために」ということで、総合型クラブに期待はあるんだろうなという一面は、ひしひしと感じる場所である。学区内に総合型クラブがあって、地域で進んでいるところは大丈夫なんだろうと思うが、学区内に総合型クラブがあるところと、無いところ。第6中学区にはあるのだが、活動はしているみたいなのだが、見えてこない部分もあって、そういうところで、いかに部活動に入らない子どもたちを巻き込む施策というか、そういうことができればいいのかな、という思いはある。

○委員

先ほど、中学生の活躍の場とおっしゃったように、例えば、スポーツをする意義って、本当にアスリートを目指している子どももいれば、自分の居場所を探しているというか、帰宅部でも仲間がいて、居心地のいい場所があったら、幸せな生き方ができるかもしれないし、今はツールが色々あって、自分で何かやろうと思ったらインターネット等でどんどん自分の世界を広げていける。スポーツで何がと言ったら、小さいときからスポーツの楽しさとか、体を動かすことを自分で体感として感じてたら、お金をかけなくても自分で何か見出していくかもしれないが、部活が全てを負う、大人が全て用意しなくても、自分たちで居場所を探していけるようになればいいなと思ったときに、やっぱり小さいうちからスポーツに触れる機会というのが、例えばマラソンとか、ああいう誰でも気軽に参加できる場が一杯あればいいと思う。また、親子で参加するというのがメリットで、親子で楽しめる、スポーツができる、そういう所が一杯あると、部活の年代になってどこにも行き場がないけど、自分で別に、バスを用意してくれなくても自転車で行ったり、自分のことは自分で、人に左右されず、道を自分で歩めるような子になってほしいと思う。部活動がここで移行となったときに、スポーツを「させる」というところよりも、居場所づくりも関わってくる。スポーツ推進とかそういうところだけではなく、全部を巻き込まなければいけないというのを改めて自覚したので、できるところは何か協力をしていきたいと思う。

○委員

これは土日祝日の話。月曜日から金曜日まではどうするのか。学校の部活動で、土日祝日は地域と連携できている。1校でチームができないため、複数校でチームを作って参加するという中でやって、土日祝日は地域でやれと、その辺が矛盾している。働き方改革から来て

いると思う。地域でも、土日祝日は仕事が休みなので何とかできるが、平日は見れないという指導者がいると思う。それをどうするかということをしないと、ただ土日祝日は地域にやって、指導者が今はいますよと。総合型クラブで受け入れていきますよと。ただ、平日に学校でやっていたものが地域に行ったときに、整合性というか、指導者が変わるということになれば、中学生は戸惑う。月曜日から全部を部活動として捉えるのか、完全に学校を関係なくして「クラブ活動」という形の中で、地域の中でみていくという形にするか。以前にも言ったが、スポーツ協会から指導者を派遣して、月曜日から土日も含めてやってくれるようになればいいと思うし、将来的には中学校の部活動そのものがなくなるのかもしれない。

とにかく「土日祝日の地域移行」という話をしていると、じゃあ平日はどうなるのか。鶴岡のように「土日祝日はやらない」と決めたところもある。これは、ずっとやっていったら、この通り少子化になっているので、4校合同でサッカー1チーム作りましたと、今やっているわけだが、じゃあ平日はどうやって練習するのか。そこそこでするのか、どこかの学校に集まってするのか、あるいは土日のみ一緒にやるのか。あるいは本番直前だけ集まってやるのかと言っても、それはできるものではない。年間を通した指導体制というものを考えていかないと、土日祝日だけこういうふうにやりますと言っても、無理があると思う。

⇒学校教育課

いま委員がおっしゃったように、平日と土日について、同じような形でできればいいのだが、なかなかそういうことは難しい状況である。平日の部活動については学校で行って、顧問を付けてやっているのだから、少ない人数で、先ほどサッカーの話がありましたが、パスだけとか、リフティングとかそういう練習なのかもしれないし、あと休みになれば合同でできる。合同チームを組んだというのは大会に出るためであって、部活動を運営するための合同部活動というのはまだやっていない。それも含めて、今度平日、合同部活動は幾つかの学校で、顧問一人でもできるという新たなシステムなのだが、そちらのほうも入れていったほうがよいのか、様々なことを考えていかなければならない。ただ国で、令和8年度から5年か6年で平日も移行していきましようというようなところ。それを聞いただけでも、正直頭が痛い。指導者が休めるわけがない。だから企業やそういうところで考慮してもらったりとか、色々なものを考えていかないと。これはだから、学校教育課だけではなくて、全体で考えていって、体制を作るということをししないと、厳しいだろうなと考えている。

○委員

先ほど「移行」から「連携」というキーワードがあったが、最初この話が出たときには、連携というものが前面に出ていたような感じがする。その連携とは、学校と地域との連携なのか、どんなことを想定していたのか。完全移行と言うのはちょっと無理がある。連携をどのような形の中で考えていくのか。

⇒学校教育課

連携というのは、あくまで「部活動」という形で、部活動を地域の指導者が見る、部活動指導員が見る、外部コーチが見る。例えば顧問が出られないときは、部活動指導員なんかが出て活動するという。あくまでも学校が責任の主体であり、部活動としての、外部指導者が見るといふような形が「地域連携」。「地域移行」になると学校から切り離されて、クラブ自体が運営から、組織を全て地域の方々が作って行って、指導者もそこから出て行って活動するというような、学校から切り離される形になる。ただ、完全に学校が投げるといふことでなくて、今それは色々ご意見をいただいている。連携といったときには、子どもについての大事な情報とか、子どもの体の様子とか、そういうことは色々情報交換して共有していきましようという連携は必ず取っていくことになる。まずはそんな形で、地域連携というと学校の部活動を地域の人たちが見るといふこと。移行したときには新たにクラブ化していく

ということ。将来的には地域移行を目指すということで動いている。地域連携というのは、国で言っているのは、令和5年度から7年度までに、地域移行がすぐには進まないところについては、地域連携という形で、合同部活動や部活動指導員の体制を作って、子どもの土日の活動を保証していきましょうというところを強くいっていて、違いをそのように捉えてやっているところである。

(2) その他

○事務局

1点ご報告をさせていただきたい。本日11時から市長の定例記者会見を行った。4月から仮設のスケートリンクの整備に向けての設計の予算、それから、旧松山中学校体育館の整備に向けて、駐車場等もなかったということで、旧校舎の解体についても6月の定例会で補正予算を組ませていただいた。

令和4年度から、山形県のほうでは「屋内スケート施設のあり方検討会」というものを進めてきており、一定の報告が出された。令和5年度のマーケティング調査とかそういうものを受けて、令和6年度に入って「屋内スケート施設整備検討会」というものを立ち上げて、2回ほど会議をしている。時系列に話すと、8月22日の第2回目の検討会、こちらの中で、検討会の中に知事が入っているわけではないが、報告の中で、「公共交通機関でアクセスできる村山地域の都市部に屋内スケート施設を整備する」という方向性の案が出された。これは報道発表もあり、先月、10月10日に山形県の担当部局の部長からも、市長、副市長、教育長も含めて、説明をいただいた。山形県のほうでは、酒田市の要望書も受けて、色々検討をさせていただいた中で、「村山地域の都市部」という方向になった。また、同日に、山形県と山形市が共同でスポーツ施設3施設を整備していくというような報道発表がされた。その話も、担当部長から伺っており、本市としては、7月25日の大雨災害もあった中で、これからこの仮設スケートリンクの整備についてどう進めるかということを協議した。結論から申し上げますと、仮設のスケートリンクについては、整備を中止するという判断をさせていただき、市長の定例記者会見で発表させていただいたところである。委員の皆様からも色々なご意見、ご支援等いただいたわけであるが、県営のスケートリンクを庄内に引っ張ってくるということを目的とした仮設スケートリンクであったので、県の屋内スケート施設が来ないということなので、この松山地域に仮設のスケートリンクを整備することは、中止にするという中身である。

今後、スケートリンクをどうするかという点については、大雨災害の復旧・復興が3年程度かかるということで、その後、整備するかしないかというのは、将来的な課題ということで今後検討していく予定である。なお、令和2年の3月に策定した「体育施設整備方針」の中にも、昨年度(R6.3.31)で廃止した市体育館の機能移転だとか、そこにあった仮設のスケートリンクも含め、今後検討していくというような内容であるし、旧松山中学校体育館も耐震性のある施設であるということで、現在ある松山体育館が、耐震基準を満たしていない、建築基準法以前の建物ということで、旧松山中学校体育館に機能移転するというような内容もうたっているの、先ほどお話ししたように、復旧・復興後に検討していきたいと思っている。松山の件については、地域のほうからのご意見だとか、そういったものを伺いながら、丁寧に進めていきたいと考えているので、審議会の委員の皆様へのご報告ということで、させていただいた。色々ご迷惑等お掛けしているところであるが、よろしく願いをしたい。

なお、補正予算で組ませていただいた費用については、まず仮設スケートリンクの設計については、進捗状況が2割程度ということで、これは当然、体育館を整備するにあたっては、

基礎的な部分は活用できるのかなと考えている。今、設計業者と調整をさせていただいており、無駄にならないような形で進めていきたい。あわせて、旧松山中学校校舎の解体については、2億4千万円ほど計上していたが、全て12月補正予算で落とすという方向である。今後どうするのかというと、整備と解体をセットで考えていかないと、特定財源が付かないということであるため、旧松山中学校体育館の整備を進める方向にいったときに、あわせて解体していくというような形をとりたいと思っている。この特定財源というのは「過疎債」というもので、総事業費の70%が交付税措置されるというものであるもので、それもあわせてご承知おきいただければと思う。

5. 閉会（事務局）

以上